

## 付録 2 . 日本学術会議 3 研連代表者と電気・情報関連学会役員との連絡会議事録抜粋

日 時 平成 13 年 9 月 21 日 ( 金 ) 午前 10 時 30 分 ~ 午後 12 時 30 分

場 所 電気通信大学 80 周年記念会館 3 階 研修室

### 出席者

#### 日本学術会議

[ 電気工学研連 ] : 豊田淳一委員長、村岡泰夫幹事

[ 電子・通信工学研連 ] : 末松安晴委員長、荒井賢一委員、羽鳥光俊幹事、加藤邦紘幹事、  
後藤 敏事務局代表

[ 情報学 / 情報工学研連 ] : 土居範久委員長 ( 情報学 ) 富田眞治幹事 ( 情報工学 )

#### 電気・情報関連学会

[ 電気学会 ] : 種市 健会長代理、石井彰三副会長、櫛間良弘事務局長

[ 電子情報通信学会 ] : 内藤喜之会長、齊籐忠夫副会長、後藤裕一総務理事、  
青山友紀総務理事、家田信明事務局長

[ 照明学会 ] : 北岡 隆会長、田淵義彦副会長、木滑寛治事務局長

[ 映像情報メディア学会 ] : 奥田治雄総務理事、羽鳥好律総務理事、金子正秀調査理事、  
三国良彦事務局長

[ 情報処理学会 ] : 鶴保証城会長、村岡洋一副会長、荻野隆彦総務理事、  
柳川隆之事務局長

### 議 事 ( 抜粋 )

#### 1. 各学会の近況について

電気学会、電子情報通信学会、照明学会、映像情報メディア学会および情報処理学会の順に近況報告が行われた。主な点は次の通りである。

- 1) 各学会とも会員数の減少が依然続いている。
- 2) 財政的に苦しい学会が増えてきており、本年度予算ベースでは 3 学会が実質的に赤字基調である。一方、過去の剰余金や寄付金を生かして積極的な事業展開も行われている ( 電子情報通信、映像情報メディア、照明、情報処理 ) 。
- 3) 学会間の協力の動きが進んでいる ( 電気 電子情報通信、電子情報通信 情報処理 ) 。
- 4) 政府の技術政策に対して提言を行った ( 電気、電子情報通信、情報処理 ) 。
- 5) 技術者の教育・資格に係わる活動や一般市民を対象とした普及啓発活動が積極的に行われ、多くの参加を得ている ( 電子情報通信、照明、映像情報メディア ) 。
- 6) 新千年紀および新世紀の始まりの時期ということもあり、記念事業を企画して学会活動の活性化の努力が行われている ( 照明、映像情報メディア、情報処理 ) 。

報告の最後に、日本学術会議側から、各学会の女性の役員および会員数を必ず報告の中に記載し、不可能な場合にはその理由を示すよう、再度の依頼があった。また、今後の幹事学会のローテーションが確認された。

## 2. 意見交換

末松委員長から、学会はお互いの連携をもっと密にして余力を持った活動ができないか、との発言があった。すなわち、“電気・情報技術の重要性が大きくなってゆく中であって、集まった5学会の会員数低下は深刻な問題である。一方、例えばIEEEは5学会の範囲をカバーし、35万人程度の会員を擁し、豊富な財力と人材を生かし全世界に積極的な活動を展開している。当然、我が国でも活動を行っており、明治維新の頃の黒船襲来の観がある。5学会も合同すれば9万人程度の大学会になり、連携の結果生じる余力を生かして世界を舞台とした充実した活動ができるはずである。”という趣旨である。

これに対して、出席者から次のような賛意が示された。

- 1) 情報分野では数年前にこの問題の重要性を認識した連携の議論があり、現在は情報処理学会と電子情報通信学会の情報・システムサイエティとの連携が具体的に進められている。ただ、総論賛成各論反対に陥る傾向も経験している。
- 2) 量的な力は大きく、我が国として特に情報の分野で何らかの形で統合・協力を進め、力を結集して対抗してゆくことが重要と考える。各学会は今回の指摘を踏まえた検討をするのがよいと思う。総論賛成各論反対もあろうが、状況は変化している。
- 3) 照明分野でも応用物理や土木など関連分野が多く、連携の推進により効率的な運営を行い、世界に認識される情報発信を行うことに賛成である。議論してできるところから実施してはどうか。

以上